



編集・発行
 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
 大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター
 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
 TEL:072-957-2121
 FAX:072-958-3291
 HP:http://www.ra.opho.jp
 E-mail:kokyucen@ra.opho.jp

病院機能評価の認定を更新することができました。

小児科部長（病院機能評価実行委員長） 亀田 誠（かめだ まこと）

当センターはこの3月に病院機能評価（V6）の審査を受け、その結果7月に認定を更新することができました。これは当センターの医療に対する取り組みが、客観的に評価されたものです。病院機能評価は第三者機関である日本医療機能評価機構が、大きく6つの分野について詳細な評価を行います。その内容は病院経営、地域における役割、病院職員への配慮にも及びます。中でも重要なのは医療の質と安全でしょう。これらについて日本医療機能評価機構が審査を行い、改善が必要であればその勧告もなされるという厳しいものです。当センターは5年前に初回の認定を受け、今回は、改善勧告を受けることもなく認定を更新することが出来ました。認定内容は医療機能評価機構のホームページから見る事が出来ます。



ところで皆様は病院機能と聞くとどのようなことを考えられるでしょう。高度な医療、親切な対応、待ち時間が短い、など様々だと思います。しかしこれらは時代とともに、そして医学の進歩とともに変化するものです。何よりも大切なことは、より良い医療が医療サイドだけで規定されるものではない、そして医療サイドだけでは成しえないことです。呼吸器・アレルギー医療センターが、専門病院として、そして地域に密着した病院として発展するためには、皆様からのご意見とご協力が重要です。病院機能評価認定更新を受けた時点で止まることなく、さらに良い病院を目指していくために、是非皆様の声を病院にお届けください。

高血圧に注意しましょう！ 循環器内科主任部長 荒木 良彦（あらき よしひこ）

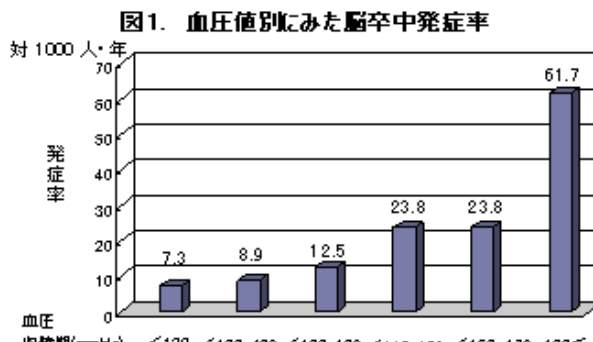
日本の高血圧者は4000万人（30歳以上男性の48%、女性44%）であり、高齢化社会にともない今後も増加します。



～高血圧は、脳卒中や心筋梗塞を引き起こします～

高血圧は脳卒中や虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）の原因となり、特に脳卒中とは強い関係があります。（図1.）のように血圧が140/90mmHg以上になると脳卒中の発症率は一段階高くなり、180/110mmHg以上になると一気に増加します。

収縮期血圧10mmHg上昇すると男性では約20%、女性では約15% 脳卒中や虚血性心疾患の発症・死亡の危険性が高まります。



～高血圧治療目標～

生活習慣の改善（塩分・カロリー・脂肪分を控えめにして適度な運動も行って適正体重を保つ。アルコールも少なく、禁煙。）を行っても血圧が140/90mmHg未満にならない場合は薬物治療を開始します。（図2.）が目標値です。

高血圧自体は、苦痛や症状に乏しく、また治療も長期にわたるため途中で薬をやめてしまう方も少なからずおられます。しかし、年齢とともに危険性が増す脳卒中や虚血性心疾患の発症を予防するために高血圧治療は継続する必要があります。

主治医と相談しながら気長に治療を続ける事が大切です。そのために、気軽に通える自宅近くの診療所（開業の内科医師）への通院が望ましいとされており是非ともご近所の「かかりつけ医」をもつようにこころがけて下さい。

収縮期(mmHg)	<120	<120-129	<130-139	<140-159	<160-179	180以上
拡張期(mmHg)	<80	<80-84	<85-89	<90-99	<100-109	110以上

図2. 血圧目標値

若年層・中年層	130/85 mmHg 未満
高齢者	140/90 mmHg 未満
糖尿病 腎機能障害 心筋梗塞後	130/80 mmHg 未満
脳血管障害	140/90 mmHg 未満

放射線科 診療放射線技師
マンモグラフィ認定技師

「CT検査について」の巻

吉田 絵未 (よしだ えみ)

皆さんこんにちは。毎日毎日暑いですね・・・昔母に「暑いと思うから暑いんや！」と訳のわからない理論でクーラーを止められた事があります。その当時は何でやねん！と怒っていましたが、大人になって冷房病という現代病と闘う羽目になり、母の忠告のありがたさ



が身にしみる今日この頃です。

さて、今回はCT検査についてご紹介します。CTとは Computed Tomographyの略で前回ご紹介したMRIと同様に体の輪切り像を撮影する検査です。MRIが磁石の力を使って撮影するのに対して、CTはX線を使って撮影するので被爆がありますがMRIと比べると非常に短時間で撮影が終わります。長時間横になっているのがつらい方や、MRIに対応していない体内金属がある方、閉所恐怖症がある方はCTで対応させて頂く場合が多いです。

乳がんの精密検査にはMRIを使用する病院とCTを使用する病院とがあり、当院は基本的にはMRIで検査を行っています。CTで乳がんの精密検査をする場合もMRIと同様、造影剤を注射しながら撮影を行い、患部の経時的な染まり方を見ていきます。患部が染まるか染まらないか、またどんな染まり方をするかで良悪性が判別でき、また、その病巣がどのように進展しているかを診ることが出来ます。

造影剤を注射すると体がカッと熱くなる事がありますが、これはお薬の影響ですので問題ありません。ただし、吐き気がする、体がかゆくなる、冷や汗が出る、悪心があるなどといった症状は造影剤の副作用ですので、我慢せずにおかしいなと思ったらすぐにスタッフにお知らせください。また、造影剤はおしっこと一緒に体の外へ出て行きますので、検査後は(水分制限などがなければ)水分をいつもより多めに摂ってくださいね。

来月号は「乳がんの種類について」というテーマでお送りします。お楽しみに♪

8月の教室案内

- * カンガルー教室 ● 8月 4日・11日・25日
- * 喘息教室 ● 8月はありません

午後1時半～

午後2時～

